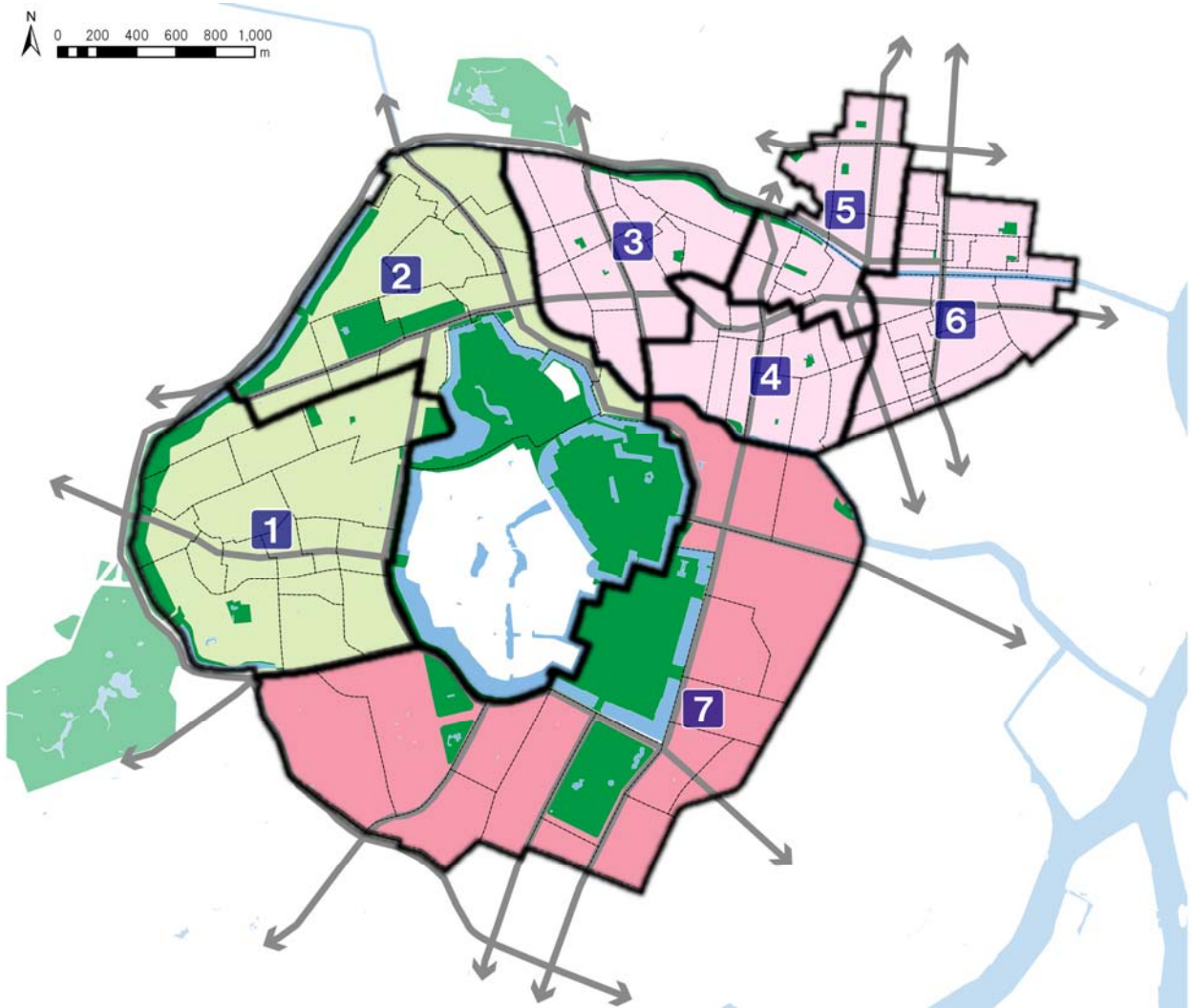


地域別まちづくりの目標と方針

1. 番町・麴町地域
2. 飯田橋・富士見地域
3. 神保町地域
4. 神田公園地域
5. 万世橋地域
6. 和泉橋地域
7. 大手町・丸の内・有楽町・永田町地域

▶ 地域区分の設定



麴町・番町
・富士見エリア

- 1 番町・麴町地域
- 2 飯田橋・富士見地域

秋葉原・神田
・神保町エリア

- 3 神保町地域
- 4 神田公園地域
- 5 万世橋地域
- 6 和泉橋地域

都心中枢エリア

- 7 大手町・丸の内・有楽町・永田町地域

エリア・地域区分		町丁目
麴町・番町 ・富士見エリア	番町・麴町地域	隼町、平河町一丁目・二丁目、麴町一丁目～六丁目、紀尾井町、一番町、二番町、三番町、四番町、五番町、六番町
	飯田橋・富士見地域	千代田、北の丸公園、九段南一丁目～四丁目、九段北一丁目～四丁目、富士見一丁目・二丁目、飯田橋一丁目～四丁目、一ツ橋一丁目
秋葉原・神田 ・神保町エリア	神保町地域	一ツ橋二丁目、神田神保町一丁目～三丁目、神田三崎町一丁目～三丁目、西神田一丁目～三丁目、神田猿樂町一丁目・二丁目、神田駿河台一丁目・二丁目
	神田公園地域	神田錦町一丁目～三丁目、神田小川町一丁目～三丁目、神田美土代町、内神田一丁目～三丁目、神田司町二丁目、神田多町二丁目、神田鍛冶町三丁目
	万世橋地域	外神田一丁目～六丁目、神田須田町一丁目、神田淡路町一丁目、二丁目、神田駿河台三丁目・四丁目
	和泉橋地域	神田須田町二丁目、鍛冶町一丁目・二丁目、神田紺屋町、神田北乗物町、神田富山町、神田美倉町、岩本町一丁目～三丁目、神田西福田町、神田東松下町、神田東紺屋町、神田岩本町、東神田一丁目～三丁目、神田和泉町、神田佐久間町一丁目～四丁目、神田平河町、神田松永町、神田花岡町、神田佐久間河岸、神田練塀町、神田相生町
都心中枢 エリア	大手町・丸の内・有楽町・永田町地域	丸の内一丁目～三丁目、大手町一丁目・二丁目、内幸町一丁目・二丁目、有楽町一丁目・二丁目、霞が関一丁目～三丁目、永田町一丁目・二丁目、日比谷公園

● 地域 1 ●

番町・麹町地域

▶ 地域の特徴

概況

- ・一般型地区計画を基本として、落ち着いたある居住地と、内濠～外濠をつなぐ麹町大通りの景観軸に沿った街並みを誘導しており、都心居住の豊かな環境や文化的な環境を保っています。

成り立ち

- ・江戸期には、番町・紀尾井町界隈には、御三家一門や譜代大名、将軍の警護を担う「大番組」が設置されていましたが、麹町界隈は、宿場町から発展し、幕末には、周辺の大名家・旗本屋敷の消費生活を支える山の手最大の町地として賑わいました。
- ・明治期以降は、隼町・紀尾井町界隈は軍用地や皇族家族地へ、番町界隈は明治政府の官僚や政治家の屋敷街へと変化し、外国公館の立地や文化人の居住などにより、文化性の高い地域として確立しました。
- ・戦後は、番町界隈は広い屋敷跡を利用したマンションやオフィス街へ、麹町界隈は多くの商家が廃業してオフィス街へ、隼町・紀尾井町は学校や国立劇場、ホテルなどの大規模施設へと転換しました。

地域の資源

- ◇交通の利便性に恵まれた閑静な住宅地、学校施設、大使館などが立地し、落ち着いたある雰囲気
- ◇まちの記憶を伝える通り、高低差、坂など歴史・趣を感じられる空間
- ◇豊かな緑の骨格とまちなかの身近なくつろぎの空間
- ◇紀尾井町界隈には国際的シティホテルが集積し、歴史・文化・交流機能が集積

▶ まちづくりの動向・課題

まちづくりの動向：

- ◇落ち着いたある街並み・環境に配慮した建替えを誘導（一般型地区計画（一部、街並み誘導型））
- ◇新たな拠点としての位置付け（市ヶ谷と四ツ谷（新宿区側）が「活力とにぎわいの拠点地区」に設定）
- ◇日本テレビ通り沿道のまちづくり協議会が発足

まちづくりの課題：

- ◇20年間で1.5倍に増加した人口への対応や超高齢化社会の到来への対応
- ◇多様化するライフ・ワークスタイル、ひとの多様性への対応
- ◇番町らしい落ち着いたある居住環境の維持
- ◇分譲マンションの管理適正化の推進・高経年化等に対して耐震化等も含む適切な機能更新の遅れ
- ◇通り・坂の風情や連続した緑を感じる、歩いて楽しい環境の創造やオープンスペースの創出等の身近な緑・空間の不足への対応
- ◇交通結節拠点の強化と駅周辺における都市機能の充実
- ◇長期末着手の都市計画道路とその整備を想定した土地利用計画

▶ まちづくりの方向性

現行マスタープランの将来像	改定に向けた新たなまちづくりの進化の方向性
<p>落ち着いたたたずまいの住環境を大切にし、住宅と業務空間が共存・調和するまち</p> <p>番町地域は、豊かな歴史・文化的資源、大規模な緑地・オープンスペースを活かして、空間的なゆとりや景観的なうるおいを備えた質の高い住環境を保全・創出するとともに、快適な業務空間を形成し、これらの共存・調和を目指します。また、若者からお年寄りまで、多様な世代にとって魅力のあるまちを目指します。</p>	<p>急速な人口増加や高齢化に対応し、ライフ・ワークスタイルを豊かにしながら、長く住み続けられるよう建物更新を適切に誘導</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇職住が近接した都心の魅力を感じる居住環境の創出 ◇歴史あるまちの雰囲気、界索性や落ち着きを継承する分譲マンション等の管理適正化・耐震補強、リノベーションを含む建物更新の促進 ◇ライフスタイルを豊かにする都市機能の誘導 ◇エリア回遊軸沿道の文化的資源とゆとりある空間・機能の連続性の確保 ◇外濠・内濠の環境創造軸とまちの緑・街並みがつながる、身近で居心地の良い公共空間・オープンスペース等の創出と活用（防災力向上等） ◇子どもや高齢者をはじめ、多様なひとが長く安心して、歩いて暮らしやすいまちづくり（麹町駅番町出口等） ◇既存コミュニティの継続と地域（住民・企業・学校など）が連携したまちづくり ◇地域特性を考慮した市ヶ谷駅の交通結節拠点機能の強化

改定版マスタープランのまちづくりの方向性（案）

将来像 落ち着いたたたずまいの住環境と都心生活の高質で創造的な魅力が共存・調和し、多様なひとが長く住み続けられるまち

- ◇多様な人々が長く住み続けられ、安全に安心して暮らせる居住環境の創出、維持・保全
- ◇職住が近接した都心の魅力を感じる居住環境の創出
- ◇多様な人々がライフ・ワークスタイルを豊かにしながら、安心して活動し、交流できる質の高い環境の創出
- ◇豊かな歴史、界索性や落ち着きのある雰囲気を継承
- ◇隣接区を含む地域内・外における回遊性や連続性の向上
- ◇市ヶ谷駅・駅周辺を中心とした都市機能や周辺のまちとの結節機能の充実

周辺区と連携して界索性と回遊の魅力を高めるまち 紀尾井町～赤坂

さらに検討すべき論点（意見聴取、公聴会、意見交換会での区民等のご意見 まとめ）

将来像：

- ◇将来像、まちづくりの方向性の明確化、現行マスタープランの将来像の堅持
- ◇「中層・中高層の住居系の複合市街地」（現行の整備方針）、現行の地区計画を尊重すべき
- ◇住環境の保全を第一に、住宅地として発展すべき
- ◇職住近接と居心地のよい文化資源とゆとりある空間は共存できない
- ◇番町の「閑静な住宅地」「文教地区」と業務空間は調和するのか
- ◇緑が多く、人口が少ない抑制的なまち

まちづくりの方針・整備方針等：

- ◇民間企業の活力を積極的に活用できる環境づくり
- ◇夜間人口を増やし昼間人口は抑制する方向へ誘導すべき
- ◇建物更新・高層化は、地域特性に応じて判断すべき、容積・高さ制限緩和による建物更新は行うべきではない
- ◇二七通り、四番町の街並み、麹町大通りの景観が良くない

● 地域 2 ●

飯田橋・富士見地域

▶ 地域の特徴

概況

- ・外濠・内濠、日本橋川、靖国神社、北の丸公園などの大規模な緑と水辺の空間に囲まれ、文教地区の落ち着きと交通・業務・居住の拠点機能が共存するまちとなっています。

成立ち

- ・江戸期には、牛込門、田安門、小石川門などに囲まれ、旗本屋敷を主とした武家地が広がっていました。飯田町の一部には町地が分布し、武家相手の商売で賑わっていました。
- ・明治維新後、明治政府の官僚や政治家の屋敷街、軍用地や皇族華族地へと変化し、やがて学校や病院等に転換していきました。この間、明治2年には靖国神社が創設、明治27年には、飯田町を始発として八王子まで走る甲武鉄道が開通しました。
- ・戦後、落ち着いた住宅地として発展していきました。

地域の資源

- ◇文教地区内は学校施設や医療施設などが立地した落ち着いたたたずまい
- ◇幹線道路を軸として、商業・業務施設が集積
- ◇九段下には千代田区役所などの区政の中核機能が集積
- ◇外濠～神田川・日本橋川～靖国神社～北の丸公園～内濠の水と緑の連担性

▶ まちづくりの動向・課題

まちづくりの動向：

- ◇都心有数の交通の結節点である飯田橋駅の周辺では、土地区画整理事業や市街地再開発事業等により、多様な機能が集積・調和したバランスのよい環境を創出
- ◇JR 飯田橋駅のホーム改良、西口駅舎の建替え、駅広場の整備など、交通結節拠点としての強化と地域まちづくりの機運の醸成
- ◇地域で共有された「まちづくり基本構想」が尊重された開発により、緑や子育て・教育環境等と調和したバランスの良い環境を維持
- ◇新たな拠点として、市ヶ谷が「活力とにぎわいの拠点地区」に設定
- ◇公共空間の活用を眼目とした北の丸公園の周辺整備

まちづくりの課題：

- ◇多様な都市機能が調和したバランスの良い環境の維持
- ◇多様化するライフ・ワークスタイル、ひとの多様性への対応
- ◇目白通り東側など、集中豪雨や台風等における水害対策
- ◇交通結節拠点のさらなる強化と駅周辺における都市機能の充実（飯田橋駅の路線間の移動経路のバリアフリー化、駅周辺の滞留空間の整備、市ヶ谷駅の交通結節拠点の位置付けへの対応）

▶ まちづくりの方向性

現行マスタープランの将来像	改定に向けた新たなまちづくりの進化の方向性
<p>学園や緑の広がり、水辺のやすらぎと商店の活気による、魅力ある生活空間が育まれたまち</p> <p>富士見地域は、学園や病院などが多く、閑静で落ち着いたある住宅と活力のある商店街による、魅力あるまちを目指します。また、外濠、内濠、日本橋川といった水辺空間や靖国神社、北の丸公園等の緑の広がりを活用して、やすらぎのあるまちを目指します。</p>	<p>大規模な緑地と内濠、外濠、日本橋川の連続性を高め、隣接区を含む回遊性と歴史的・文化的界限性を活かせる拠点機能を育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇多様な都市機能が集積した高い利便性を保持しつつ、落ち着いたたたずまいを創出 ◇飯田橋・九段下・市ヶ谷の各拠点の連携によるまちのゲート機能の向上 ◇飯田橋駅周辺の連続的な開発にあわせた拠点機能の充実 ◇水と緑の連担性や教育施設の集積を活かしたライフスタイル・ワークスタイルの実現 ◇地域特性を考慮した市ヶ谷駅の交通結節拠点機能の強化

改定版マスタープランのまちづくりの方向性（案）

将来像 緑と水辺に囲まれ、歴史的・文化的界限性を活かしたライフスタイル・ワークスタイルが実現するまち

- ◇多様な人々がライフ・ワークスタイルを豊かにしながら、安心して住み、働き、活動し、交流できる質の高い環境の創造
- ◇緑や水辺の連続性を高め、居住と商業・業務機能等が調和した落ち着いたやすらぎのある市街地環境の創出
- ◇隣接区を含む地域内・外における回遊性や連続性の向上
- ◇歴史的界限性や多様な都市機能の集積、高い利便性を活かし、拠点機能や交通結節機能が充実した安全で快適な空間の創出
- ◇駅・駅周辺を中心とした都市機能や周辺のまちとの結節機能の充実した拠点の創出

周辺区と連携して界限性と回遊の魅力を高めるまち

飯田橋～神楽坂

さらに検討すべき論点（意見聴取、公聴会、意見交換会での区民等のご意見 まとめ）

◇

● 地域 3 ●

神保町地域

▶ 地域の特徴

概況

- ・多様な教育施設が集積し、学生のまちとして古書店街が形成されるなど、「知」と「文化」のエネルギーが交わり、多彩なひとが多様なモノ・コトを起こすエネルギーを持ったまちとなっています。

成り立ち

- ・江戸期には、主に大名屋敷や旗本屋敷、幕府関係施設などの武家地が建ち並んでいました。
- ・明治維新後、一ツ橋一帯や近隣の神田公園地域には、大学・各種学校など、多くの教育施設が立地・発祥し、印刷・製本業や古書店などが集積しました。また、劇場や映画館等が設けられ、住商工の混ざり合った活気ある下町型のまちとして発展していきました。関東大震災後の復興区画整理事業によって、靖国通りなどの幹線道路が整備されました。
- ・第2次世界大戦中の空襲を免れた古書店などを中心に、独特の雰囲気をもつまちとして発展を遂げました。

地域の資源

- ◇古書店街、印刷・出版街など、多くの滞在者が来訪する特色ある界隈が形成
- ◇大学・各種学校の発祥の地であり、現在も大学や医療施設が集積、学生街が形成
- ◇靖国通り・白山通りなど東西南北に幹線道路が走り、骨格軸が発達
- ◇お茶の水風致地区などの外濠の豊かな景観や歴史ある錦華公園など、豊かな環境

▶ まちづくりの動向・課題

まちづくりの動向：

- ◇エリアに応じて都市計画手法を活用
 - ・神田駿河台では一般型地区計画、神田神保町や一ツ橋では千代田区型地区計画を適用、
 - ・総合設計制度や市街地再開発事業などにより、街区単位での機能更新を推進
- ◇お茶の水橋の補修補強工事や明大通りの歩道拡幅など御茶ノ水駅周辺の整備の推進
- ◇新たな拠点としての位置付け（御茶ノ水、水道橋、九段下・神保町が「活力とにぎわいの拠点地区」に設定）
- ◇白山通りが都市計画道路の優先整備路線に選定

まちづくりの課題：

- ◇高齢化への対応と多様化するライフ・ワークスタイル、ひとの多様性への対応
- ◇小規模敷地における建物老朽化の進行
- ◇ひと・空間の特色を生かした多様な活動を支える環境の創造
- ◇日本橋川の再生・活用
- ◇白山通り西側など、集中豪雨や台風等における水害対策
- ◇白山通りの整備に伴う街区の見直し

▶ まちづくりの方向性

現行マスタープランの将来像	改定に向けた新たなまちづくりの進化の方向性
<p>文化を創造・発信し、多くの人々を引きつける、にぎわいとふれあいにあふれたまち</p> <p>神保町地域では、書店・古書店や学生街など独特のまちの個性を活かしつつ、武道館やスポーツ用品店街などとの回遊性を高め、にぎわいにあふれたまちを目指します。また、出版業・書店の集積を活かし最新の情報を発信するとともに、歴史・文化的たたずまいや下町的コミュニティの感じられるまちを目指します。</p>	<p>特徴ある業態が集積する靖国通りや、内濠と神田川をつなぐ白山通り、日本橋川を軸に、文化と界隈を楽しめるネットワークを拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇古くからの生業でひとを惹きつける個性ある界隈を継承 ◇白山通りを軸にした竹橋駅周辺・神保町駅周辺の機能の連担性や回遊性を向上 ◇街区単位での機能更新などとあわせて、まちとつながりの強い施設・空間を創出 ◇多様なひとがまちの様々な空間を使って多様なモノ・コトを起こしていける環境の充実 ◇さらなる高齢化の進行を見据え、ライフスタイルを豊かにする都市機能の誘導 ◇日本橋川に沿った心地よい空間の連続性や街並みの創出と浸水対策

改定版マスタープランのまちづくりの方向性（案）

<p>将来像 文化を創造・発信し、多くの人々を引きつける、まちの活力やにぎわい、ふれあいにあふれたまち</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇多様な人々がライフ・ワークスタイルを豊かにしながら、安心して住み、働き、活動し、交流できる質の高い環境の創造 ◇古くからの生業でひとを惹きつける個性ある界隈性の継承、歴史・文化的たたずまいや下町的コミュニティの感じられる空間の形成 ◇白山通りを軸にした竹橋駅周辺・神保町駅周辺の機能の連担性や回遊性の向上 ◇街区単位での機能更新などとあわせて、まちとつながりの強い施設・空間を創出 ◇多様な人々がまちの様々な空間を使って多様なモノ・コトを起こしていける環境の充実 ◇日本橋川に沿った心地よい空間の連続性や街並みの創出と浸水対策
--

周辺区と連携して界隈性と回遊の魅力を高めるまち	医療機関の集積地（神田川沿い）・神田三崎町 ～水道橋・後樂園
-------------------------	-----------------------------------

さらに検討すべき論点（意見聴取、公聴会、意見交換会での区民等のご意見 まとめ）

◇都心居住の誘導

● 地域 4 ●

神田公園地域

▶ 地域の特徴

概況

- ・出世不動尊や佐竹稲荷神社などに残っている歴史、神田駅周辺の商店街、スポーツ用品店街の形成など、昔ながらの下町らしさと新しい文化の双方を感じられるまちとなっています。

成り立ち

- ・江戸期には、西半分は大名屋敷や武家屋敷などの武家地、東半分には高密度な町地が広がっていました。
- ・明治期、神田錦町・小川町付近には、多くの教育施設が立地し、学校のまちとなりました。一方、町地は住商混在の活気ある下町型のまちとして発展しました。関東大震災で地域の大部分を消失し、復興区画整理事業により、幹線道路である靖国通りや本郷通りなどが整備され、現代の地域の骨格が形成されました。
- ・戦後、地下鉄網が整備されると、交通の利便性が向上し、大手町をはじめとした業務機能が集積する地域に隣接していることから、区内でも特に業務地化が進行しました。

地域の資源

- ・靖国通り沿いのスポーツ用品店街、神田駅周辺の飲食店街など、多くの人を訪れる特徴的な界隈が形成
- ・内神田を中心に下町らしい路地空間、看板建築、出世不動尊や佐竹稲荷神社など、歴史を感じられる空間
- ・小学校跡地を利用して創出した小川広場、大手町との間を流れる日本橋川
- ・千代田区立スポーツセンターがあり、区のスポーツの拠点

▶ まちづくりの動向・課題

まちづくりの動向：

- ◇千代田区型地区計画のきめ細かな展開や総合設計制度などの活用により、定住人口の回復を目指して住宅床の供給を誘導
- ◇神田錦町界隈、神田警察通りにおける機能更新の推進
- ◇神田警察通り沿道において、社会実験を実施するなど、地域主体による価値創造の取組みが活発化（エリアマネジメントの進展）

まちづくりの課題：

- ◇多様化するライフ・ワークスタイル、ひとの多様性への対応
- ◇小規模敷地や道路率の高さに起因した建物老朽化の進行
- ◇身近な緑・空間の不足、日本橋川の水辺空間の再生
- ◇看板建築の減少、マンション立地や余剰の附置義務駐車場整備による賑わいの連続性の低下など、まちの味わいや奥行きを感じられる神田らしさの希薄化
- ◇神田警察通りを軸とした新たな価値創造活動のさらなる展開
- ◇コミュニティの衰退

▶ まちづくりの方向性

現行マスタープランの将来像	改定に向けた新たなまちづくりの進化の方向性
<p>下町の雰囲気を活かし、活力ある新しい文化の感じられるまち</p> <p>神田公園地域は、親水性を高めた日本橋川の水の軸を活かして、人々の憩う、うるおいあふれるまちを目指します。また、スポーツ用品店街や、神田駅周辺の商店街に集まる多様な人々との交流や、出世不動や佐竹稲荷神社などに残っている歴史性をまちの資源として活かし、昔ながらの下町らしさと新しい文化の感じられるまちを目指していきます。</p>	<p>まちの“モノ”“コト”“ひと”を活かし、つなげながら、由緒ある下町のDNAを未来に伝える “神田”らしいまちづくりを展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇神田のまちの文脈のつながりを感じさせる神田駅周辺の機能更新 ◇下町らしいまちの営みを感じられるリノベーションや建替えの促進 ◇小規模地権者が多い地域の建物更新 ◇まちの文脈にそった開発の誘導により、味わいのある界限・空間との調和、連続性・回遊性と賑わいの向上 ◇大手町と秋葉原の中間で存在感を高め、下町の魅力を創出 ◇神田警察通り沿道における連続的な空間・機能の活用による地域価値の向上 ◇身近な緑を感じられる居心地の良い空間などオープンスペースの創出・活用や開発を契機とした水辺空間の再生の実現 ◇地域コミュニティの活性化

改定版マスタープランのまちづくりの方向性（案）

将来像 まちの“モノ”“コト”“ひと”を活かし、つなげながら、由緒ある下町のDNAを未来に伝えるまち **中間のまとめ**

- ◇多様な人々がライフ・ワークスタイルを豊かにしながら、安心して住み、働き、活動し、交流できる質の高い環境の創造
- ◇歴史性、“神田”らしい下町のDNA、まちの文脈のつながりを感じられる界限性の継承、連続性・回遊性の向上と活気と賑わいの形成
- ◇身近な緑を感じられる居心地の良い空間の創出や水辺空間の再生
- ◇地域まちづくりの推進

周辺区と連携して界限性と回遊の魅力を高めるまち

神田～日本橋

さらに検討すべき論点（意見聴取、公聴会、意見交換会での区民等のご意見 まとめ）

- ◇防災性向上・環境負荷低減・緑被率向上
- ◇公共空間整備を積極的に進め、景観資源として活かすまちづくり（神田駅西口）

神田小川町：

- ◇住民主体のまちづくりへの行政の支援・積極的な姿勢の提示

神田錦町：

- ◇都心居住の誘導（ファミリー層を増やすために立体的なまちづくり、再開発）
- ◇神田と大手町の回遊性の向上（人道橋）
- ◇大規模開発によるまちの活性化

神田駅西口：

- ◇効率的な土地利用を促す街区再編により、緑化空間とオープンスペースを創出し、防災性能の向上と歩いて楽しいまちづくり

● 地域 5 ●

万世橋地域

概況

- ・世界有数の電気街・観光地として発展を遂げ、サブカルチャーなど多様な文化の発信地や情報技術産業拠点として発展した秋葉原を中心に多様な価値ある場所が連担するまちとなっています。

成立ち

- ・江戸期、筋違門付近は、日本橋を基点とする中山道と江戸城から上野寛永寺に将軍が参詣する御成道が交わり、多くの人が行き交う場所でした。江戸中期以降、神田川を中心に舟運の拠点となり、材木や薪炭などが流通、神田多町には青果市場が設けられ、江戸の商業都市として大きく発展しました。
- ・明治期は市電や鉄道の開通により、舟運から陸運へと変化しました。明治45年には、筋違門のあった場所に甲武鉄道万世橋駅が開業、神田須田町界隈は、東京一の盛り場として栄えました。昭和18年に万世橋駅が廃止、青果市場は神田多町から秋葉原に移転しました。関東大震災後の復興区画整理事業により、靖国通りなどが整備され、現代の地域の骨格が形成されました。
- ・戦後、神田小川町～神田須田町周辺において、電気製品のヤミ市が成立し、世界でも類を見ない現代の秋葉原電気街へと発展していきました。

地域の資源

- ・神田明神や神田祭り、ニコライ堂や古くから続く老舗などの歴史的資源
- ・御茶ノ水界隈の文教地区には、大学や医療施設が集積
- ・世界有数の電気街・観光地として発展してきた秋葉原界隈は、サブカルチャーなど多様な文化を発信、情報技術産業等新産業の拠点
- ・旧練成中学校を活用したアーツ千代田 3331 では、多様で柔軟な創造的活動が展開
- ・歴史的遺構の顕在化、水辺と一体となり、往時の活気を呼び起こす空間を形成 (mAAch ecute)

▶ まちづくりの動向・課題

まちづくりの動向：

- ◇秋葉原駅周辺の大規模未利用地の土地利用転換、環境に配慮した建物・空間の創出など、都市再生の進展
- ◇御茶ノ水駅の駅舎改修による交通結節拠点の強化、回遊性の向上（御茶ノ水ソラシティ～ワテラス）
- ◇エリアマネジメントの進展
- ◇神田川沿いの親水空間を活用した賑わいの創出（mAAch ecute 神田万世橋）
- ◇公共施設の建替えにあわせた神田川兩岸の一体的なまちづくりの推進
- ◇神田駿河台の大学校舎の建替えにあわせたまちづくりの推進

まちづくりの課題：

- ◇秋葉原を起点とした、神田公園地域や隣接区との連担・連携の強化
- ◇外神田や靖国通り沿いの小規模敷地における建物老朽化の進行と賑わいの継承
- ◇多様な歴史的資源・文化が融合した新たな魅力の創造
- ◇増加する外国人観光客など、多様な滞在者への災害対応等の安全確保
- ◇身近な緑や清潔感のある空間の不足

▶ まちづくりの方向性

現行マスタープランの将来像	改定に向けた新たなまちづくりの進化の方向性
<p>下町風情と最先端が調和する 活気に満ちたまち</p> <p>万世橋地域は、神田明神、老舗の商店等の下町的・伝統的な雰囲気や駿河台の落ち着きある雰囲気を大切にすると共に、電気街の最先端的な産業集積によるヒト・モノ・情報の拠点を育むまちを目指します。また、人々が憩える回遊空間の形成を進め、多くの人でにぎわうまちを目指します。</p>	<p>秋葉原を起点として、 淡路町、神田駿河台へとつながり、 広がる拠点域・文化創造圏のネットワークを形成</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇秋葉原の拠点と万世橋周辺、淡路町の連担性が高まる魅力づくり ◇国際観光拠点としての安全・安心・アメニティの向上 ◇大手町・神田から外神田、湯島、上野・御徒町へつづく回遊軸の形成 ◇歴史的資源や祭りとともに、多様な文化や情報、ものづくり・アート、コミュニティが互いに作用しあって魅力を創造し、発信する場・機能の充実 ◇J R 御茶ノ水駅の駅舎改修や大学等の神田駿河台の機能更新を契機とした魅力ある連続的な空間・街並みのネットワークの形成

改定版マスタープランのまちづくりの方向性（案）

将来像 歴史的資源や多様な文化・情報、ものづくり・アート、コミュニティの相互作用により、
魅力を創造し発信し続けるまち

- ◇多様な人々がライフ・ワークスタイルを豊かにしながら、安心して住み、働き、活動し、交流できる質の高い環境の創造
- ◇秋葉原の拠点と万世橋周辺、淡路町の連担性による魅力の向上
- ◇国際観光拠点としての安全・安心・アメニティの向上
- ◇大手町・神田から外神田、湯島、上野・御徒町へつづく回遊軸の形成
- ◇歴史的資源や祭りとともに、多様な文化や情報、ものづくり・アート、コミュニティが互いに作用しあって魅力を創造し、発信する場・機能の充実
- ◇神田駿河台の機能更新を契機とした魅力ある連続的な空間・街並みのネットワークの形成

周辺区と連携して界域性と回遊の魅力を高めるまち

外神田・御茶ノ水駅周辺～御徒町・上野・湯島

さらに検討すべき論点（意見聴取、公聴会、意見交換会での区民等のご意見 まとめ）

- ◇都心居住の誘導
- ◇神田地区における「大学の機能更新を誘導する」政策は削除すべき、妥当な事業であるか検証すべき
- ◇居住者の視点

秋葉原周辺（ご意見では「広域秋葉原」と記載）：

- ◇地域の人々の憩いの場・新しい文化を発信する場として、神田川沿岸の整備・再開発
- ◇秋葉原の歴史性・特性を活かし・伸ばすまちづくり
 - ・“秋葉原”のイメージを継承するリノベーションの促進（地区デザインコードの策定）
 - ・江戸時代に“辻”として栄え、地域文化を育んできた特徴を強化し、歩行者とクルマが共存し、歩きながら体験できる場を創出
 - ・独自の文化の創造・振興、様々なチャレンジが可能な特区としての認定

● 地域 6 ●

和泉橋地域

概況

- ・かつての、問屋街の面影は失われつつありますが、年に二回「岩本町・東神田ファミリーバザール」が開催されるなど繊維街としての面影を残しています。コミュニティのつながりとエネルギー、なりわいの息づいたまちとして、下町的な良さが保たれています。

成り立ち

- ・江戸期は、日本橋地域と隣接していることも影響し、商人や職人の長屋が連なり、神田川沿いには、舟運を利用した流通関連の業種が多く立地していました。
- ・明治維新後も、金物ををはじめ、東京の流通で重要な立場を維持し、現代の金物通りの原型ともなりました。関東大震災後の復興区画整理事業により、幹線道路である靖国通りや昭和通りなどが整備され、現代の地域の骨格が形成されました。昭和の初めには、秋葉原旅客駅が設置されて交通の拠点となりました。
- ・戦後、繊維・金物・薬品など独特の問屋が集積し、住商の混在する町として発展していきました。

地域の資源

- ◇下町らしさのある界隈、看板建築など歴史を感じられる空間
- ◇産学連携機能・集客機能・情報発信機能などが集積し、新産業拠点を形成
- ◇年に二回開催され、多くの人々が来訪する 30 年以上続く「岩本街・東神田ファミリーバザール」
- ◇リニューアルされた芝生広場のある和泉公園
- ◇地域の中央を東西に流れる神田川

▶ まちづくりの動向・課題

まちづくりの動向：

- ◇千代田区型地区計画のきめ細やかな展開や総合設計制度などの活用により、定住人口の回復を目指して住宅床の供給を誘導
- ◇岩本町・神田では、町会の協力により若手アーティストで構成される団体によるエリアリノベーションのプロジェクトにより、かつての問屋街にあった建物の再生が進展
- ◇鍛冶町の廃校となった中学校の校舎を活用した緊急待機児童対策の実施
- ◇防災船着き場・観光の拠点としても活用される和泉橋船着き場の整備により、神田川の親水性が向上
- ◇神田川沿いの個別建替えが連続し、水辺を感じられる空間が増加

まちづくりの課題：

- ◇昭和通り、靖国通りといった幹線道路により、都市機能や賑わいが分断
- ◇ファミリー層を中心とする人口増加への対応
- ◇かつての生業の集積度の低下
- ◇小規模敷地や道路率の高さに起因した建物老朽化が進行
- ◇神田川の再生・活用
- ◇建物の規格の変遷に対応しきれない地区計画の見直し

▶ まちづくりの方向性

現行マスタープランの将来像	改定に向けた新たなまちづくりの進化の方向性
<p>地域に根ざした新たな産業を育む、活気と人情豊かなまち</p> <p>和泉橋地域は、都心の利便性を活かし、新たな産業構造への転換を進め、都心居住が促進された活気と人情豊かなまちを目指します。また、親水性を高めた神田川の水の軸や道路空間などを活かして、人々が気軽にふれあえるような、人情あふれる空間づくりを進めます。</p>	<p>日本橋や大手町、秋葉原への近接性、まちの成立ちやつながり、文化性、神田川の水辺を活かし、新しい下町の居住の魅力を創出</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇神田のまちの文脈のつながりを感じさせる神田駅周辺の機能更新 ◇下町の居住、問屋街としての成り立ちのなかで息づく商売、アートやものづくりなどがつながり、都心生活が豊かになる場の創出（まちの味わいを感じるリノベーション） ◇神田川の水辺を活かして、ゆとりある居心地の良い空間の創出 ◇居住人口の急速な回復に対応した魅力形成（都心生活を楽しむ休日・平日、夜間の魅力創造） ◇働き方の多様性に応じた魅力ある居住スタイルの創造 ◇まちの文脈に沿った開発の誘導により、味わいのある界限・空間との調和、連続性・回遊性の向上

改定版マスタープランのまちづくりの方向性（案）

将来像 地域に根ざした新たな産業を育み、新しい下町の居住の魅力を創出するまち

- ◇多様な人々がライフ・ワークスタイルを豊かにしながら、安心して住み、働き、活動し、交流できる質の高い環境の創造（都心生活を楽しむ休日・平日、夜間の魅力創造）
- ◇下町の居住、問屋街としての成り立ちのなかで息づく商売、アートやものづくりなどがつながり、都心生活が豊かになる場の創出（まちの味わいを感じるリノベーション）
- ◇まちの文脈に沿った開発の誘導により、味わいのある界限・空間との調和、連続性・回遊性の向上
- ◇まちの文脈のつながりを感じられる界限性の継承、連続性・回遊性の向上と活気と賑わいの形成
- ◇まちの味わいを感じられるリノベーション
- ◇神田川の水辺を活かしたゆとりある居心地の良い空間の創出

周辺区と連携して界限性と回遊の魅力を高めるまち

岩本町・東神田～馬喰町

さらに検討すべき論点（意見聴取、公聴会、意見交換会での区民等のご意見 まとめ）

- ◇ホテルの誘導
- ◇周辺区と連携して界限性と回遊の魅力を高めるまちに「神田～日本橋」を追加

● 地域 7 ●

大手町・丸の内・有楽町・永田町地域

概況

- ・大手町・丸の内界隈にはオフィス街、有楽町界隈には繁華街が発展し、永田町・霞が関界隈には国家中枢機能が集中し、歴史と風格ある街並みが形成されています。

成立ち

- ・江戸城正門である大手門前や大名小路には老中・若年寄など幕閣を担う譜代大名らの屋敷や幕府諸機関が所在、丸の内・日比谷・霞が関界隈には有力外様大名の上屋敷が分布し、江戸の中枢を担いました。
- ・明治維新後、大手町・丸の内・霞が関界隈には政府の諸機関が、丸の内・日比谷界隈には軍用地が置かれました。その後、官庁集中計画により、司法省・大審院・海軍省の煉瓦庁舎が完成、明治 36 年には日比谷練兵場跡地が日比谷公園として開園しました。丸の内の軍用地は民間に払い下げられ、明治 27 年の三菱一号館が竣工後、「一丁倫敦」と呼ばれるビジネス街となりました。
- ・大正 3 年には東京駅が開業、行幸通り一帯に鉄筋コンクリート造のオフィスビルが竣工、「一丁紐育」と称される米国風の街並みが出現しました。高度経済成長期以降になると、業務機能の集積が急速に進展するとともに、中央官庁地区の整備が進みました。

地域の資源

- ・東京駅、法務省赤レンガ棟、国会議事堂など歴史と風格ある街並みが形成されています。
- ・行幸通り、丸の内仲通りなど魅力的で個性的な道路空間が存在しています。
- ・「地区計画」と両輪となる、官民連携で定めた「まちづくりガイドライン」が尊重された都市再生の様々な活用が進み、大規模なオフィスビルの更新、高度で多様な都市機能・空間が充実しています。
- ・日枝神社の大祭・山王祭は、江戸期以来のまちのエネルギーを象徴し、現代へと継承されています。
- ・日比谷公園は、都心のオアシスとして愛されています。

▶ まちづくりの動向・課題

まちづくりの動向：

- ◇歴史的な街並みの保存による都心の風格の継承と顕在化、商業・文化など多様な都市機能の誘導や緑・空地の確保により、新たな価値・交流を生む空間として再生・活用が進展
- ◇常盤橋における大規模開発のさらなる進展
- ◇日比谷公園グランドデザインとその周辺による地域資源の魅力向上に向けた取組み
- ◇国家戦略特区制度を活用した道路空間の魅力創造、広場の活動運営などのエリアマネジメントの進展
- ◇大手町、丸の内仲通り、大手町～六本木ヒルズなどでの新技術を取り入れた社会実験の実施

まちづくりの課題：

- ◇多くの昼間人口、外国人観光客数の大幅な増加により、ひとの多様性に配慮した大規模災害対策
- ◇歴史と風格ある街並みの保存・継承
- ◇緑・水辺空間の一体性の確保や魅力ある環境の創造
- ◇ひと・空間の多様性を生かした居心地の良い場づくり
- ◇多様な滞在者の多様な活動を支える移手段の高度化
- ◇隣接区との連担・連携の強化

▶ まちづくりの方向性

現行マスタープランの将来像	改定に向けた新たなまちづくりの進化の方向性
<p>風格ある環境共生空間に、国際的に開かれた豊かな都市活動が育まれるまち</p> <p>本地域は、世界都市東京の中心にふさわしく、歴史の積み重ねによる風格ある質の高い街並みを形成し、また、鳥や昆虫の棲む水と緑にあふれた環境共生空間を創出します。さらに、多様な人々に開かれ、質的転換の図られた高次な業務機能と国際的な商業・文化・交流・情報機能をあわせもつ複合的な都市機能を備え、災害に強く、豊かな都市活動や世界的交流が営まれるまちを目指します。</p>	<p>豊かで活発な都市活動やグローバルな交流が営まれる経済・社会・環境・文化が調和した持続可能性の高い都心を形成</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇大規模災害の発生を想定し、政治・行政・司法の国家中枢機能とともに、高度で国際的なビジネス交流の拠点としての機能の継続性や滞在者等の安全を確保 ◇首都東京の都心としての歴史の積み重ねがつくる風格を活かし、新しい都心デザインのなかで継承 ◇皇居外苑・内濠・日比谷公園等との一体性・連続性の高い空間や都心の眺望を楽しめる空間を創出 ◇都市再生を通じて創出された機能やストックされた空間の多様性と“場の力”を活かし、ネットワーク化を推進 ◇空港アクセスなど、都心への広域的なゲートとしての機能・利便性の向上 ◇日比谷・内幸町等から、新橋・汐留や虎ノ門、八重洲側、六本木等との連坦性・機能連携の強化 ◇東京都市計画の広域的な役割の中で、Society5.0等次世代を見据えた機能更新を展望 ◇文化・芸術機能の強化（MICE等）

改定版マスタープランのまちづくりの方向性（案）

将来像 豊かで活発な都市活動やグローバルな交流が営まれる経済・社会・環境・文化が調和した持続可能性の高い都心 **中間のまとめ**

- ◇多くの昼間人口、外国人観光客、ひとの多様性に配慮した大規模災害対策
- ◇政治・行政・司法の国家の中核機能、高度で国際的なビジネス交流の拠点としての機能の継続性の確保
- ◇首都東京の都心としての歴史の積み重ねがつくる風格を活かし、新しい都心デザインのなかで継承
- ◇皇居外苑・内濠・日比谷公園等との一体性・連続性の高い空間や都心の眺望を楽しめる空間を創出
- ◇都市再生を通じて創出された機能やストックされた空間の多様性と“場の力”を活かし、ネットワーク化を推進
- ◇空港アクセスなど、都心への広域的なゲートとしての機能・利便性の向上
- ◇日比谷・内幸町等から、新橋・汐留や虎ノ門、八重洲側、六本木等との連坦性・機能連携の強化
- ◇東京都市計画の広域的な役割の中で、Society5.0等次世代を見据えた機能更新
- ◇文化・芸術機能の強化（MICE等）

周辺区と連携して界域性と回遊の魅力を高めるまち

有楽町・日比谷～虎ノ門・新橋・汐留・銀座
～永田町～六本木
大手町・丸の内～八重洲・日本橋

さらに検討すべき論点（意見聴取、公聴会、意見交換会での区民等のご意見 まとめ）

- ◇都心居住の誘導
- ◇「イノベーションが創出され、成長し、発信するエリア」としての記述を追加

都市マネジメントの方針

1. 都心の力を創造的に活かす協働のまちづくり
2. 地域まちづくりの推進
3. 継続的なまちづくりの改善・進化

1

都心の力を創造的に活かす協働のまちづくり

この方針で描いた将来像（ビジョン）は、千代田区で生活・滞在し、活動するたくさんの、そして多様なひと、事業者、組織・団体等が、それぞれの力を活かして創意工夫を重ね、つながりを強めて、具体的なまちづくりを展開して実現していくものです。

千代田区には、多くのひと、モノ、空間、情報が集まり、交わり、都心の様々な魅力や価値、活動と相互に作用しあって、交流と創造の大きな力が生まれています。

多様な都心のまちづくりを推進していくためには、既存の地域コミュニティはもとより、区民、企業等、在勤者、エリアマネジメント組織、大学等教育・研究機関、在学者、NPO・ボランティア団体等多様な主体との連携・協働・合意形成を図ることが必要です。また、千代田区のまちづくりは周辺区や東京都、そして国にも大きな影響を及ぼすことからこうした関係行政機関との調整・合意形成も重要になっています。

各主体がそれぞれの役割や責任を十分に理解し、まちづくりに取り組むことが大切です。



出典：NPO法人 大丸有エリアマネジメント協会 (Ligare) HP、淡路エリアマネジメント

これからのまちづくりでは、まち・ひと・地域の力と千代田区などの行政が相互に連携し、新しい魅力・価値を共に創り（共創）、育て、未来に伝えていくために、みんなの力を結集し、大きな成果をあげられるようマネジメントしていくことを重視して、その体制や人材育成、環境整備を進めていきます。

〔地域まちづくりの推進〕

都市計画マスタープランは、千代田区のまちづくりの基本的な方針を示すものです。これを地域で具現化し個別の都市計画や都市づくり施策に展開するためには、地域特性に応じた目標や方針を地域が共有する必要があります。

地域のまちづくりの機運はもとより、地域の課題、まちの動向、社会経済環境の変化を的確に踏まえて、地域におけるまちづくりの構想の検討や策定を積極的に支援していきます。

〔都市とエリアのマネジメント〕

千代田区には多様な人々の交流と創造の大きな力が生まれています。これからのまちづくりにおいては、都心に集まり活動するひとの力と多様性を効果的に活かせるよう、既に活躍しているひとから新たに千代田区のみちと関わりを持ちはじめたひとまで、幅広く人材を発掘・育成しながら、仲間づくりや活動のスタートアップを効果的に応援していかなければなりません。都市を「つくる」だけでなく、「使う」「育てる」ことを念頭におき、こうして育て、広げた力を最大限に活かして、千代田区ならではの多様な価値を次世代に継承し、発展させていけるよう、適切なマネジメントを行っていくことが必要です。

公共空間等の多種多様な場の力を活かし、育てる力。

交流の場から新しい価値観やスタイルを発信し、仲間を増やしていく力。

社会実験などを通じて先端的な発想や技術を具現化していける力。

まちづくりの情報やノウハウ、人材といった豊富な「知」の蓄積を活かす力。

こうした力を結集して、歴史を継承し最先端を歩む千代田区ならではのエリアマネジメントの実現を目指します。開発事業が契機となるエリアマネジメントはもとより、既成市街地におけるエリアマネジメントの可能性についても検討していきます。

〔まちづくりとマネジメントのプラットフォーム〕

千代田区内の各地におけるまちづくり協議会の設立、まちづくり構想の立案、開発協議、エリアマネジメントなどの実績を踏まえて、地域の多様な主体が連携し、それぞれの力を発揮して、まちのポテンシャルを活かした魅力・価値創造を持続的に進め、発展させていける仕組みを確立していきます。

(例)

- 個性ある界隈の魅力・文化を活かし、発展させていく「まちの将来ビジョン」と都市機能・空間のデザイン
- 将来ビジョンに沿って、まちの価値を維持し、高める建築・開発の誘導
- 地域資源や空間活用の創意工夫と収益活動の展開、さらなる魅力創造・課題解決の好循環の創出
- まちづくりの活動・事業の評価と改善 など

3

継続的なまちづくりの改善・進化

〔まちづくりの基本調査「都市づくり白書」〕

都市計画基礎調査とともに、都市の多様な空間や流動、ストック・資源の情報、統計情報、地図情報など、都市や地域の状況や変化を把握できる情報・データを定期的に調査し、それを公開し多様な主体がまちづくりについて議論できる都市づくりの情報のプラットフォームを構築します。

例えば 5 年ごとの都市計画基礎調査が実施されるタイミング等にあわせて、その時点の成果・課題（都市づくり白書）をまとめ、その先の都市づくりや取組みの成果や、改善・進化に向けた論点・課題を整理していきます。

〔マスタープランの改定〕

年度単位の予算編成、千代田区都市づくり白書と連携した 5 年単位の施策・事業改善、機動的で柔軟な見直しへの対応、10～20 年単位の計画改定など、施策・事業～政策の評価・改善のレベルに応じて、区政の根幹となる戦略（基本構想・基本計画等）と連動させながら、都市づくりの取組みを改善し、進化させるため「都市計画マスタープラン」は必要に応じて柔軟に見直します。

〔“次世代の都心・千代田の進化”を目指す区全体のスマートなマネジメント〕

次世代の ICT 環境が高度に充実していくなかで、ビックデータや AI などの革新的技術を使いこなして、都心に住み、働き、滞在・活動する多様なひとの動きをリアルに分析し、様々な地域課題の解決や都心生活の質（QOL）を高める都心のサービスの進化に対応して、都心の充実した都市基盤、高度な都市機能、空間等の再編・再配分や資源活用の効率化・最適化を進めていく都市マネジメントの体制を確立していきます。

次世代の都心の価値を高める都市マネジメントの進化のイメージ

